

# 病 院 だ よ り

医療安全推進月間について

吉本美佐江

冠れん縮型狭心症から急性心筋梗塞への進行原因について

中山理一郎

中央検査部より皆さまへ

大野 勝寿

**国際親善総合病院**

〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-28-1  
TEL 045(813)0221 (代表)  
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>



## 医療安全推進月間について

皆さま、ご存知ですか？厚生労働省は、国民の理解や認識を深めてもらうことを目的として、毎年11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、医療機関や医療関係団体等と一緒に、「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動」の推進を図っております。

当院でもこの主旨を受け、平成18年より医療安全週間、昨年からは、11月を医療安全推進月間と定め様々な取り組みを行っています。私たちは、日々医療安全に努めていますが、この期間は更に関心を高め、気を引き締めチーム一丸となり患者さんの安全について考え実行していきたいと思っております。

それでは、私たちの取り組みをお知らせいたします。

- ◆職員による医療安全についての標語とポスター作成、掲示。
- ◆各部署の医療安全活動や成果を発表し合う「院内リスクマネジメント報告会」の開催。平成16年から開催し第6回を迎えます。近隣の病院の方や保健所の方もお誘いし、来て頂いております。私たちは、地域の医療機関全体が協力し合い安全な医療を提供できることが大切だと考えております。
- ◆「医療安全確認」のバッジを職員全員が胸に付け、医療安全意識の向上を図り、お互いに啓蒙し合います。

今年度の標語・ポスターやバッジにご注目下さい。

私たちは皆さまと一緒に医療安全に取り組みたいと思っております。どうぞご協力をお願いいたします。



平成20年度 標語・ポスター





## 冠れん縮型狭心症から急性心筋梗塞への進行原因について

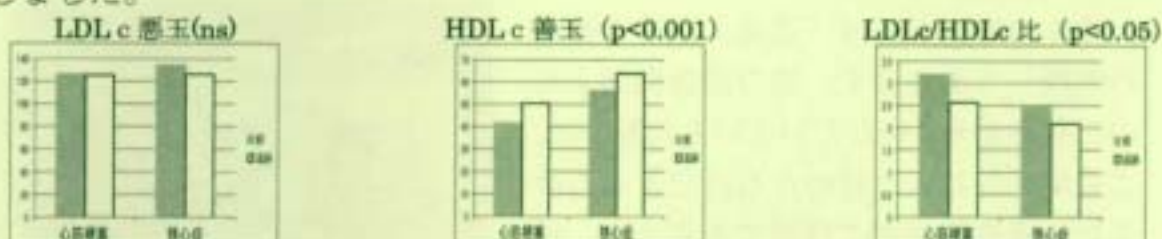
これまで日本人に多いと言われてきた深呼吸により誘発される冠スパズム（攣縮）型狭心症ですが、その危険性と原因については以下の臨床報告でしか解っていませんでした。

1999年CSAのレムナント (RLPc > 5.1 > 3.1) が予後危険因子 (Kugiyama, Circ.)

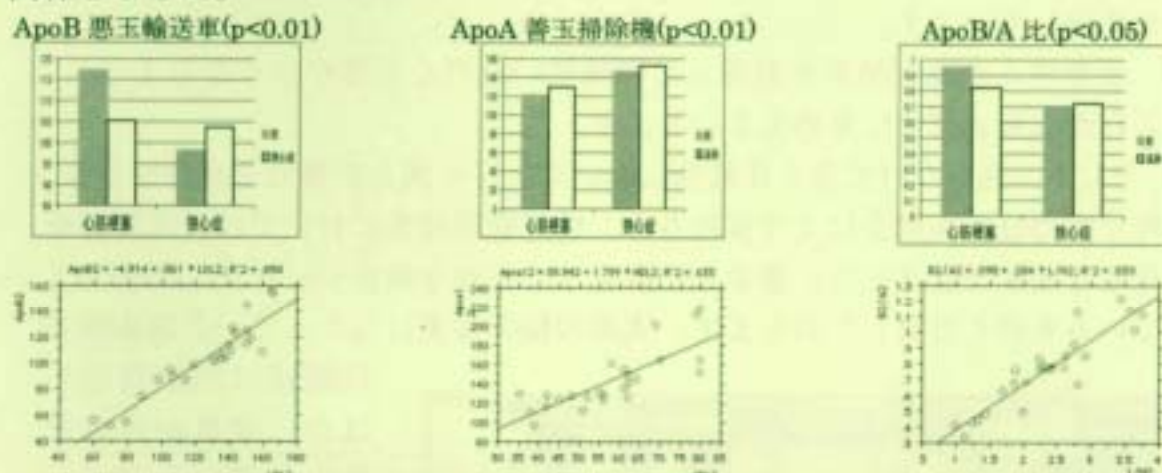
2003年50%以上の冠動脈狭窄 (CAS) が予後危険因子 (Yamagishi, JCJ.)

当院では1991年から2009年まで臨床症状・心電図と冠動脈造影からCSAと診断した869例（平均63歳）を平均10年6ヶ月追跡し、AMIを発症来院した15例（1.7%）のリスク因子をAMIを発症しなかった狭心症15例と比較しました（別に1.7%15例が心肺停止と推定）。

2006年狭心症の冠動脈狭窄進展リスクとしてLDLc/HDLc比3.2 > 1.3 (Nissen, JAMA) の発表同様にHDLc善玉52以下とLDLc/HDLc比2.5以上は心筋梗塞発症と関係しました。



2008年AMIのリスク ApoB/ApoA1比0.86 > 0.75 (Interheart study, Lancet.) と同様にApoBが104以上と多く、ApoAの130以下と少ない、ApoB/A比0.75以下が関係しました。



薬マイルドスタチンにより (10vs2, p<0.0001) 下げたLDLcが関係せず、ApoB, ApoAやApoB/A比と相関するLDLc, HDLcとLDLc/HDLc比を食事（トランス脂肪酸制限）・運動療法・禁煙により改善することが心筋梗塞発症予防に重要なことが判明しました。

(日本心臓病学会総会, 札幌, 2009年9月発表)

総合内科部長 中山 理一郎

### ご案内

※開始時間が通常とは異なりますのでご注意ください。

このテーマは

平成21年11月13日(金) 15:30～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)



## 中央検査部より皆さまへ

中央検査部門は、患者さんより採取した血液など各種の検体を各種の方法で検査し、病状の診断に欠かせない検査データを提供する部門です。血液成分や尿の分析だけでなく、インフルエンザなどのウィルス検査も実施しており、その検査項目は多岐にわたります。皆さんと接する機会は少ないですが、我々臨床検査技師は検体の向こう側に患者さんを思い浮かべながら検査を実施しています。

我々のモットーは“迅速、正確な検査の実践”であります。他の診療機関よりのご紹介を多くいただいている当院では、ご来院いただいた日のうちにできるだけ多数の検査結果がご報告できるよう、検査室の環境を随時整備しており、今年度は腫瘍マーカー(癌)検査の迅速報告などを実施しています。



患者さんが検査結果をお聞きに再来院いただく必要がなくなるように、これからも迅速化に努めてまいります。

そして、速さだけでなく正確性においても日々向上の努力を続けており、昨年度の日本医師会により実施された精度管理調査においては満点評価を得ることができました。皆さんに限りなく正確な検査データをご報告できているものと自負しております。実際の検体検査に当たっている臨床検査



技師達は国家資格のほかに全員が各専門学会の認定も取得しており、単なる検査データの報告だけでなく“プラスアルファ”のある検査を目指して日々精進しています。

これからも我々中央検査部は進化を続け、少しでも皆さまの診療に役立てるよう努力を続けていきたいと思っています。

中央検査部係長 大野 勝寿